

2019年10月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断も、2月以降の「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」との判断を継続しました。前年に生じた地震の影響の反動や、本年10月の消費税率引き上げ前の駆け込み需要から、影響を受けた項目では、計数にやや大きな振れが生じています。
- 需要項目ごとの判断にも、変更はありません。観光は回復していますが、個人消費はやや弱めの動き、また、公共投資は持ち直していますが、住宅投資は減少しています。
- 雇用面や、金融機関の貸出の面についても、前回と同じ判断です。労働需給は引き締まっており、金融面でも、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、9月、土日祝日の休日数が前年より1日少なかったことや、気温も平年より高めに推移した（旭川市の平均気温で平年比+0.9度、日中最高気温25度以上日数で平年比+3.9日）ことなども売上高に対しやや不利に働いたほか、前年に生じた地震による災害関連商品の好売上の反動といった要素も働きましたが、消費税率引き上げを前にした駆け込みを背景に、11か月続いた前年比マイナスから一旦、前年並みの水準まで戻しました。
- 9月の新車登録台数は、駆け込みや軽自動車での新車効果のほか、ディーラーにおける玉繰りにも余裕が生じて登録が進み、軽自動車、除く軽、合計とも前年を大きく上回りました。四半期ベースでも、7~9月期の合計

は前年比 2 ケタの伸びで、2 期連続の前年比プラスです。

■観光の動向

- 道北 4 空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、9 月は、前年に生じた地震の影響の反動もあって、すべての空港で前年を上回り、全体でも前年を上回りました。もっとも、前々年比では全体でマイナスです。この間、旭川空港の国際線は、9 月、定期便では前年を上回りましたが、前年にあったチャーター便が本年はなく、国際線計では前年を下回っています。
- ホテル・旅館宿泊客数は、9 月、前年に生じた地震の影響の反動から、前年比では大きくプラスとなりました。もっとも、前々年比ベースで見ると、マイナスとなっています。旭川市内のホテル客室稼働率も、9 月は前年を大きく上回りましたが、前々年比で見れば下回っています。
- 各地観光施設の入込みは、9 月、地震の影響があった前年との比較では、すべての観光施設で大きく上回りました。もっとも、前々年の水準も上回ったのは網走監獄、ウトロ温泉だけで、旭山動物園、層雲峡地区、利尻・礼文フェリーは下回っており、合計でも前々年の水準は下回っています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの 3 総合振興局における公共工事請負金額は、9 月は上川で前年を下回りましたが、宗谷、オホーツクで前年を上回り、全体で前年を上回りました。19/4 月以降 9 月までの累計では、引き続き、3 総合振興局とも前年を上回っており、全体でも前年を上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、8 月、分譲がウェイトは少ないながらも著増となったほか、貸家も僅かに前年を上回ったものの、持家が前年を下回ったこと

から、全体でも2か月連続の前年比減少となりました。持家は、駆け込みと思われる動きから前年10～12月期、本年1～3月期と比較的大きめの前年比増加を示したため、その反動に注意したいところです。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、8月、前年に大きめの前年比減少を示した上川で本年、さらに前年比減少をみましたが、同様に前年に大幅減少をみた宗谷、オホーツクでは、その反動もあって本年は著増となりました。結局、3総合振興局合計でも前年を7割以上、上回りました。

■農業

- 農業は、収穫について、上川では、水稻（うるち・もち）、馬鈴薯が平年並みに終了。小豆は平年よりやや遅く進んでいるものの、大豆は平年並みに始まっています。オホーツクでも、水稻、玉ねぎは平年並みに終了。小豆は平年並みに進んでいるほか、馬鈴薯、大豆は平年より進んでいます。生育について、秋まき小麦は上川で平年よりやや早く、オホーツクでは平年並みとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。有効求人倍率は、8月、稚内で前年を上回り、網走で前年と同水準となったものの、旭川、北見で前年を下回りました。もっとも、旭川、北見とも1.2倍弱の比較的に引き締まった倍率を続けています。新規求人数は、8月、北見を除き、旭川、稚内、網走で前年を上回っており、4つの職業安定所を合計した新規求人数では2か月連続で前年を上回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、9月も前年を上回りました。9月まで7か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①予想される国土強靱化関連や災害復旧工事等の公共工事に対する、人手不足の問題を抱える建設業者の受注状況や、②日本全体の輸出・生産や企業マインド面に海外経済の減速の影響がみられる中での今年度設備投資の推移に注目しています。
- ③消費税率引き上げの影響については、今月、耐久消費財や日用品を中心に、駆け込み需要の反動が窺われているようですが、前回の消費税率引き上げ時ほどの影響は免れるのではないかとの見方も多いようです。もっとも、今後の消費マインドへの影響については、今少し注意して見てまいります。

以 上